

農繁期

レポート

令和4年 8月号

エースファーム

オーナー 株式会社エース
水田面積 20.1アール
保証量 玄米 905kg
形態品種 特別栽培コシヒカリ



生産者 高橋 秀紀さん

稲穂も出揃い少しずつ垂れ始めました。何となく色づいた様にも見え、収穫が近づいてきたなと感じています。最近天候が不順で日照不足が心配ですが、今のところ順調に実って来ていると思います。
お盆が過ぎ日南町では吹く風も何となく秋の気配がしてきました。今月末には、田んぼの排水作業を行い稲刈りに向けて準備をします。いよいよ来月は収穫、楽しみに待っていて下さい。

8月の作業内容と稲の生長

1.出穂 (しゅっすい)

茎の中で籾の集合体としてできた「穂」がさやを割って飛び出した状態を出穂と言います。最初は真っすぐピンと上に伸びています。その後すぐに花が咲き、受粉した籾がお米へと徐々に変化していきます。

2.出穂後の稲-1

出穂後の晴天がお米を作ります。日中に葉で光合成が行われ、出来たブドウ糖が夜稲に送り込まれデンプン=米になります。山間部は昼夜の寒暖差が大きく夜の気温が低いのでデンプンが消費されず蓄積して美味しくなります。

3.出穂後の稲-2

デンプンは最初ドロドロとしたミルク状の液体で徐々に固まっていきお米になります。固まると重たくなって穂が垂れ下がり、同時に籾の色も黄金色に変化します。よく言われているのは穂が出てから1000度が刈取り適期です。

4.カメムシ防除

穂が出揃う時にカメムシ防除を行います。畦付近の草から田んぼに侵入し、奥まで飛ぶことは少ないので周辺を重点的に対応します。カメムシを放置するとお米の品質や見栄えが悪く、商品にならなくなるので必須作業です。



出典:JAグループ

